

令和5年度 第9回 政策決定会議 会議録

-
- ◆開催日時：令和6年3月27日（水） 10：00～10：15
 - ◆開催場所：市長公室
 - ◆出席委員：永野市長、波積副市長、大下教育長
 - ◆説明者：西川総合政策部長、田中企画課長、中井主幹(スマートシティ推進担当)
-

◆審議事項

岸和田市スマートシティ構想の策定について・・・・・・・・・・・・・・・・総合政策部企画課⇒承認

◆審議概要

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案のとおり承認された旨、報告。

◎報告後、質疑応答

〈波積副市長〉スマートシティ構想も DX や働き方改革と同様に、日本が高齢化し働く人が減って、その中でどう国力を維持するか、その手段としてスマートシティ構想があるということがすべての背景にある。

大事なことは、科学技術が発展した中でいかに少ない人でも市民をメインに考えるまちをつくるか、そして、職員もより幸せに働けるかということ。すべてをスマート化してはいけないということも当然ある。以前農水省の研究所でデジタル化を進めるにあたり、出退勤管理を全てデジタルで行うと、農業では晴れている日は働くが晴れていない日は働かないといった例外的な働き方をする人がいて、そのためにシステム改修すると億単位のお金がかかった。しかも、対象者は3人だという。スマート化はあくまでも適正なものについて行うことが大事で、できないことまで無理やりスマート化してはいけない。それと同時に、政策調整会議でも例に出したが、以前はメールすると電話確認をしていた。スマート化するときにはいらぬ作業をやめ、実際に業務量を減らすことで職員は幸せになる。結果的に、サービスを受ける市民もサービスのレベルが向上して幸せになる。最終的に岸和田の魅力が高まり、岸和田にたくさん人が住んでくれる。最後の目的はそこにあるので、皆さんの英知を結集して進めたい。

〈教 育 長〉行政から見た場合にこの計画は非常によくできていると思う。一方で、市民の立場から見ると非常に中身がわかりにくい。新しい分野なので致し方ない部分はあるかと思う。この計画は誰が進めるのか、何を進めるのか、その成果がどう上がったか、その全体をグリップするのは誰なのかということを中心においていかないと、計画だけが残って何も実現できないということになりかねないので、ぜひそういう部分について、市全体でやっていきたい。

〈市 長〉この構想の期間は何年か。

〈スマートシティ推進担当主幹〉総合計画に合わせ12年としている。この構想を基に推進協議会を立ち上げ、その中でできる取り組みから進めていく。全体の方向性は構想を見ながら進めていき、実施

したことは公表していくという形で進めていく。

〈市長〉 構想自体は見直していくのか。

〈スマートシティ推進担当主幹〉 状況によって、必要であれば適宜見直していく。

〈市長〉 先ほど郵便局の局長から聞いた話では、今年年賀状が15%減ったとのこと。これは社会がものすごいスピードで変わろうとしていることを表している。これまで数%ずつ減っていく流れだったのが15%減と激減しており、年賀状ひとつとってもそれだけ変わっていることがわかる。年賀状が減ったことが表しているのは、人と人との付き合い方や考え方が変わってきたこと。皆が住みやすい、暮らしやすい、生きやすいためにきっと変わっていつている。人の暮らしを中心において、それを支えるまちづくり、時には導くまちづくりをしていくこと。

構想自体は12年の期限かもしれないが、人の暮らしや考え方が変わるはもっとスピードが速い可能性があるし、技術革新があるかもしれないし、大きな事故・事件がきっかけで世の中のトレンドが変わったりするかもしれないと思っている。そのため、今後推進計画の実践にあたっては社会に対して反応よくやっていくことが大事。決まっているからやるのではなく、どんどん目まぐるしく変わっていく社会を見ながら、それにいい反応で実践していくこと。実践しながら構想の部分も見直しながらやっていきたい。

また、市民の皆さんに関心を持って参加してもらいたいと思っている。市民が参加しやすい、わかりやすい議論をめざしてしっかり進められたい。

〈総合政策部長〉 本案件について、原案のとおり承認してよろしいか。

【異議なし】

⇒本件を原案のとおり承認する。

令和6年3月 11 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 総合政策部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	岸和田市スマートシティ構想の策定について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	第 7 回政策決定会議にて承認いただきました「岸和田市スマートシティ構想素案」のパブリックコメントを先般実施いたしました。ご意見などを踏まえ、構想案として取りまとめ、岸和田市スマートシティ構想として策定することにつき、付議するものです。
説明者	田中 企画課長 中井 主幹
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和5年度 第9回会議
付議事項	岸和田市スマートシティ構想の策定について

★取組の目的

対象	市民
どのような状態を目指す	ICTなどの先端技術を活用して、都市課題を解決し、持続可能な都市をめざすスマートシティの推進に向けて、岸和田市スマートシティ構想を策定する。

★総合計画上の位置付け

6020202	基本目標	みんなで作る持続可能なまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	持続可能で信頼される行政になっている
	個別目標の方向性	② 適正で効率的かつ効果的な業務の実施を進める
	行政の役割	広域的視点をもって、時代に応じた施策を積極的に推進する

★現状と課題

<p>国では、IoT、AI、ビッグデータ等の先端技術を利用し、都市課題の解決や都市機能の効率化に活かそうとする「スマートシティ」の推進を進めており、本市においても、将来ビジョン・岸和田において、分野横断的にICT・先端技術を活用して将来像の実現を図ることとしている。現在、大阪府スマートシティパートナーズフォーラム(OSPF)に参加し、個別の取組を進めているが、今後、分野横断的かつ計画的に推進するため、スマートシティの方向性を示すものとして、岸和田市スマートシティ構想を策定する必要がある。</p>
--

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
岸和田市スマートシティ構想策定支援業務委託			13,200						
岸和田市スマートシティ協議会運営支援及び実証委託				5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
学識アドバイザー報償費			237	237	237	237	237	237	
財源内訳	国費								
	府費								
	起債								
	一般財源			13,437	5,237	5,237	5,237	5,237	
	その他								
事業費			計	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
			26,185	5,237	5,237	5,237	5,237	5,237	

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
(有) 無	1	0	0	0	0

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R3年度	R4年度	R5年度	目標値				
					R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
① 協議会参加団体数	団体			0	3	6	10		
② 実装サービス数	件			0	0	1	2		

※事業費及び人員を確約するものではない。